

11月10日はトイレの日

**泌尿器科疾患 猫の発症率は犬の約4倍**

アニコム損害保険株式会社（東京都新宿区：代表取締役社長 小森伸昭）では、トイレの日（※）に合わせ、グループ会社のアニコム パフェ株式会社と共同で「どうぶつ健保」の給付金請求データを基に、泌尿器科疾患についての集計を行いました。

どうぶつ種別に、全体の請求のうちに泌尿器科疾患の占める割合を比較すると、猫が23.4%と最も高く、ウサギ、フェレット、犬の請求割合がそれぞれ6%前後であるのに対して、約4倍という結果になりました。

猫の年齢別に請求割合を集計したところ、0歳では6.0%と他のどうぶつ種と大差ありませんが、1歳以上では、20~30%前後で推移しており、成猫に多い疾患であることがわかります。

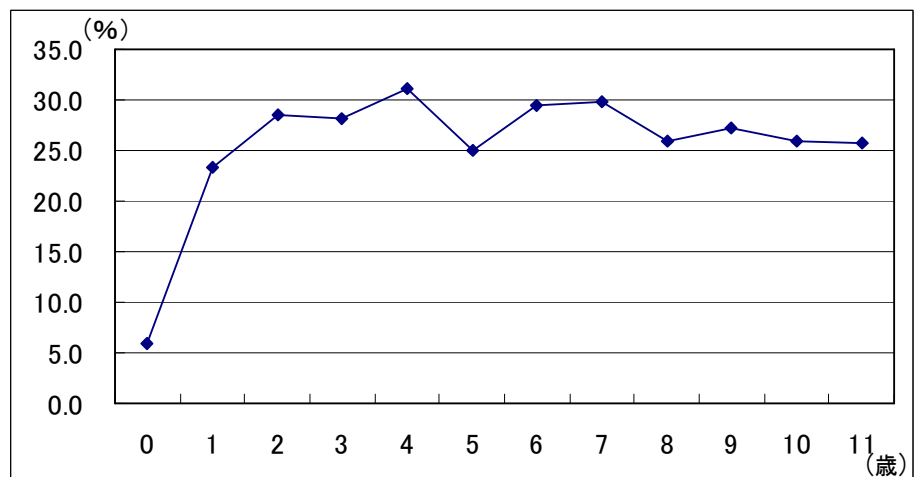
膀胱炎、腎不全、尿石症などの泌尿器科疾患は、慢性化してしまっていて継続的な通院が必要となり、猫にも飼い主にも負担となってしまうことも少なくありません。

泌尿器科疾患には、食事内容、運動不足、肥満など様々な原因がありますが、トイレが汚れている、落ち着いて使えないといった理由から、我慢をしてしまう事も原因のひとつです。猫の生活環境を見直し、安心して使える環境に清潔なトイレを用意して、病気を予防してあげてほしいものです。

**どうぶつ種別請求割合**

どうぶつ種	割合(%)
猫	23.4
ウサギ	6.5
フェレット	6.4
犬	6.1

2007年1月～12月のアニコムクラブ「どうぶつ健保」の給付金請求データ(660,500件)を集計

**猫の年齢別請求割合**

※トイレの日 11・10「いいトイレ」の語呂合わせから、日本トイレ協会が1986（昭和61）年に制定